

「ICUにおける早期リハビリテーションの効果と課題」情報公開文書

① 試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む）

ICU入室患者に対する早期リハビリテーションが、ICU在室日数や退室時基本的生活動作に与える効果を検証すること、およびICU入室患者に対し、入室後48時間以内のリハビリテーション開始を促進あるいは抑制する要因を明らかにすることを目的とする学術研究に利用します。

匿名化したデータを用い、統計ソフトで重回帰分析や多重ロジスティック回帰分析を行います。

解析の一部は岡山県立大学で行います。このため、対応表の無い匿名化情報を電子媒体で岡山県立大学に提供します。

② 利用し、又は提供する試料・情報の項目

2016年4月から2019年3月までに岡山赤十字病院のICUに入室した患者様の以下の情報。ただし、未成年者、入室後48時間以内に退室した人、または入室時に48時間以内の退室が見込まれていた人は除きます。

基本属性：年齢、性別、ICU在室期間、入院期間、入院主科、入院疾患

臨床所見：重症度（APACHE IIスコア）、鎮静状態（RASS）、疼痛、呼吸（人工呼吸器含む）、循環、基本的生活動作、スタッフ（医師、看護師、理学療法士など）の充足状況（入室した曜日など）、検査や処置の予定、

治療：人工呼吸器の有無、昇圧剤など

リハビリテーション：期間、内容

③ 利用する者の範囲

岡山赤十字病院 ICU 看護師 大村正行

岡山県立大学保健福祉学部看護学科教授 荻野哲也

④ 試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

岡山赤十字病院 ICU 看護師 大村正行

岡山県立大学保健福祉学部看護学科教授 荻野哲也